



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 中期財政計画 ～「縮充」の考え方と稼ぐ力～

令和2年度一般会計当初予算は、458億8,700万円の積極投資型予算となりました。具体的には、新病院建設事業・新東名島田金谷インターチェンジ(IC)周辺整備事業・島田第四小学校改築事業・市役所新庁舎整備事業といった、新たな時代の核となる、今後の島田市の発展のために必要不可欠な重点事業に大きな予算を配分しています。このような大規模な事業が集中することに対して、市政運営の方向性である「縮充」という方針と、ハコモノ建設は矛盾するのではないかとのご意見をいただきました。私が、令和元年度当初予算に引き続き積極投資型予算の編成を決断した背景には、建築後約60年

が経過し新たなまちづくりの拠点としての機能が期待されている市役所庁舎をはじめ、昭和の高度成長期に続々と建設された公共施設・道路などのインフラが、どれも耐用年数を迎え、改築や改修が待たなしの状態になっている現実があります。



築60年を迎える市役所庁舎

人口減少と超高齢社会の到来で、緩やかな下降線を予感させる社会経済情勢の中にあって、「縮充」（真に必要な施策・事業を選択し、資源を集中させて、市民の幸福度を上げていく「量」から「質」への転換）という方針は、市民の皆さんに対する私の責務であると考えます。限りある財源や地域資源は、今を生きる私たちだけでなく、未来を担う次世代のために持続可能なカタチで繋いでいかなければなりません。そのために、中長期的な財政見通しを立て、計画的な公共投資と財源確保に努めています。

当市の財政状況は、私が市長として最初に予算編成した平成26年度と、直近の平成30年度決算を比較して、一般会計における市債残高は約54億円減少しました。一方で基金残高は約18億円増加しており、健全



KADODE OOIGAWA イメージ図

な方向に推移しています。市債残高を削減し、基金残高を増やすという財政運営上の取り組みは、新病院建設事業や新東名島田金谷IC周辺整備などの重点事業の進捗状況を踏まえ、着実な推進を図るために必要な体力を蓄えてきたもので、今後も健全な財政運営が持続できるよう取り組んでまいります。



病院建設現場の親子見学会

また、施政方針で「稼ぐ力」の一例として挙げた「新東名島田金谷IC周辺エリアの開発」は、賑わい交流拠点の開設や企業誘致を進めることで、市全域への民間投資の呼び水となり、さらなる経済活動を生み出していく波及効果を狙っています。公共事業を核に魅力ある地域を創り、民間投資の流入、あるいは人口流入を促すことによってまちを活性化させ、経済の好循環を実現していきたいと考えています。

そうした中、平成26年から6年連続、30歳代と10歳未満の社会動態が転入超過となっていることは「暮らすなら島田で」と認めていただいていることの現れと考えています。新設住宅着工件数においても、平成28年は373件でしたが、令和元年には442件となり、4年間で1,587件の新たな持ち家が増えました。市内に雇用が生まれ、個人所得や定住人口、交流人口が増加することで税収が上向き、さらにその税収が、安全・安心な暮らしに応える施策展開や未来への投資、確実な財政基盤を築く礎になります。こうした好循環が生まれる繋がりこそが、本当の意味での「稼ぐ力」であると考えています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴うWHOのパンデミック宣言により、今後しばらくは厳しい経済状況が続くと予想されます。市としても全力を挙げて、感染予防・感染拡大防止対策に取り組むとともに、特に経営への影響が顕著に表れている小規模事業者への経済支援策を確実に実施してまいります。